

# バクチャンの使い方

## ★ 入れてはいけないもの

- ・汁もの《厳禁》貝殻、果物の芯、栗の鬼皮、玉ねぎの茶色の皮等
- ・化学品(お茶パック等「お茶はOK」)

※後の残飯(生もの)なら全てOK

## ★ 生ゴミの入れ方

- ・まず生ゴミを細かくする
- ・箱の半分(又は3等分)し毎日交互に入れる
- ・細かくして水を切ったものを、仕切った真ん中に穴を掘り、ここに生ゴミを入れる
- ・入れたらチップ等を被せ混ぜ合わせる

※時には、米ヌカ、鶏糞、テンプラ油の廃油を混ぜる(温度を高める効果)

- ・なるべく生ゴミをチップ等の中へ押し込み水平にする
- ・空気が外気と通うように蓋をする(蓋は、布、網等でもよい)
- ・蓋に重石をする

## ★ 処理のポイント

- ・高熱(40~60度)になるようにしないとバクテリアが活動しない(テンプラ油の廃油、米ヌカ、鶏糞を混ぜる。冬季は布等で横を保温する)
- ・1cm程度の虫が発生するが、これはバクテリアの助っ人マンであるが、気になったら、食用油の廃油又は米ヌカ等をかき混ぜ発酵作用を高める
- ・生ゴミで大きいものは、細かくしてから入れること
- ・生ゴミを入れない日でもかき混ぜること(新鮮な空気を与える)
- ・中がじゅくじゅくして臭いがしたら、日光浴させ、半分程度新しいチップ等に混ぜ合わせる
- ・乾燥したら酒かビールをあたえる

※じゅくじゅく又は乾燥してきた、臭いがしている等は正常でない証拠

2003. 08. 20

ホームページアドレス

<http://homepage3.nifty.com/asake/yoma/>

特定地域中の推進委員会が送る魔法の箱

# 生ゴミを消してしまうお話



## バクチャン

バクテリアが生ゴミを二酸化炭素と水に分解します。毎日(0.5~1 kg)生ゴミを入れても増えません。

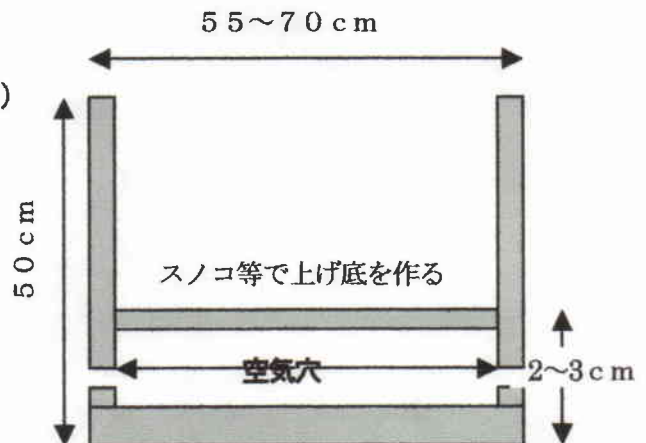
### 1. 容器作り

①縦55cm~70cm、横約40cm、深さ約50cm

程度の発砲スチロール（中の温度がにげにくい材質）の箱を用意する。

②容器の底から2~3cm程度の所へ鉛筆の太さ程度の穴を、4面下側に2箇所(両隅)ずつ計8個あける。

③容器の底から2~3cm程度の所へスノコ等で上げ底を作る。



### 2. 中身づくり

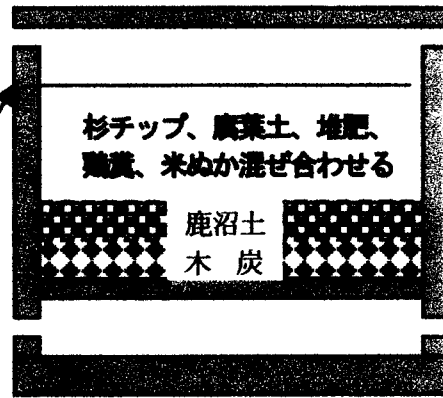
①上げ底の上に砕いた木炭を5cm程度敷き詰める。

③この上に網(硬い材質で網目が細かいもの)を全体に敷く。(無くてもよい)

④網の上に詰める「床土」を次のように作る。

- ・杉チップ ..... 全体の1/2
- ・腐葉土 ..... " 1/4 (約 2kg)
- ・堆肥(バーク) ..... " 1/12 (約 1kg)
- ・鶏糞 ..... " 1/12 (約1.5kg)
- ・米ぬか ..... " 1/12 (約0.5kg)

蓋は外気と通気性のあるように蓋をする。布か網でもよい



冬季は容器の横を古毛布等で包むとよい

⑤上記で配合したものを容器の八分目程度に入れる。

### 3. 生ゴミの入れ方

#### ★入れてはいけない物

- ・汁物(味噌)
- ・化学製品(お茶パック等)
- ・貝殻、梅干の芯等堅いもの

#### ★まづやること

床土をよくかき混ぜる(かき混ぜると発酵が始まる)

#### ★入れる前に

- ・出来るだけ生ゴミを細かくする。(消化、混ぜやすくするため)
- ・水分をきる。(容器の中の過湿防止と虫の発生防止等のため)

#### ★床の利活用

入れる生ゴミの量にもよるが、容器の床を2~3等分(毎日入れる生ごみが三角コーナー程度の時)して毎日入れる場所を変える。

#### ★入れる方法

- ① まず生ゴミが入る程度に床に穴を掘る。
- ② 穴へ生ゴミを入れる
- ③ 生ゴミの上へ床かぶして生ゴミと床土とがなじむように、よくまづし上面をゴミが表面に出ないよう平らにする。

#### 魔法の箱 成功するポイント

- ・ この「生ゴミ処理器」ねこ、犬のようにペットの生き物として考えること
- ・ めんどくさからずに生ゴミはなるべく小さくして水分を切って床土とよくかき混ぜる(出来るだけ毎日隔から隔までかき混ぜる)
- ・ 床土の温度が40~60度になるよう管理する(温度が下がるとバクテリアが冬眠してしまう)

# 生ゴミ処理器についてQ&A

## ● 生ゴミはどんな物でもいいの

毎日台所から出る食事の残りや野菜くず、果物、残飯(汁はダメ)、パン、麺類、茶殻(パックはダメ)、魚(骨 OK)肉、天ぷら、食用油(廃油)、卵の殻、カニ殻など。玉ねぎの茶色の皮、栗の鬼皮、果実の芯、貝殻などは分解できません。

## ● 容器の中がじくじくしたり臭いがする

水分や有機物が多すぎてバクテリアが活動しにくくなっています。容器の中味を取り出して日に干して乾燥した後、新しい床土と半分ほど入れ替えて下さい。(又は廃油などを入れて温度を上げる処置をして下さい)

## ● 温度が上がらない

乾燥系の又は水分の多い生ゴミを多量に入れたときや、生ゴミの量が少ないとき又はよくかき混ぜないときなども温度は上がりず、乾燥しすぎたり容器の中がじくじくしたりします。このときは、上記のように床土を交換したり廃油や米ぬか、鶏糞を適量入れて混ぜて下さい。

## ● 虫がわいてしまった

生ゴミの中に虫の卵があったり、布かアミなどで覆ってなかったりハエ等の卵を産み付けられますと虫は発生します。このときは上記の温度を上げる(50度以上になると死滅する)対策をすると発酵作用が高まり虫は死にます。日に干すこともよい。(1cm位の虫はバクテリアの助っ人マンのため気にしなくてよい)

## ● 乾燥しすぎたようだ

床土が乾燥ぎみの場合は健康状態です。床土が乾燥することはそれだけ容器内の温度が上がり水分が蒸発したからです。感想しすぎた時は、お酒やビールの残り物を適量与えて下さい。

## ● どのくらい使えるの

生ゴミは二酸化炭素と水分に分解され、なかなか中味は増えません。1年くらいは同じ床土のままで十分に使えます。

## ● 堆肥として使えるのか

生ゴミで堆肥を作る容器ではありませんが、中身を堆肥として使いたい場合は土に埋めて1ヶ月くらい経過したもので使用できます。